Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 24第18号
2024年（令和六年） 8月9日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ10階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

当週（8月1日～7日）の国際石油市場は、ハマスの最高指導者ハニヤ氏暗殺があり、イランのイスラエル報復宣言で、中東地域の緊張が高まる中、米国の景気先行き懸念が拡大、世界的な同時株安発生などから、軟化した。

NYのWTI原油先物市場は、1日、反落の76.31ドルで始まったが、その後3営業日続落、5日には約半年ぶり水準の72.94ドルまで下落したものの、7日には続伸し75.23ドルに戻した。

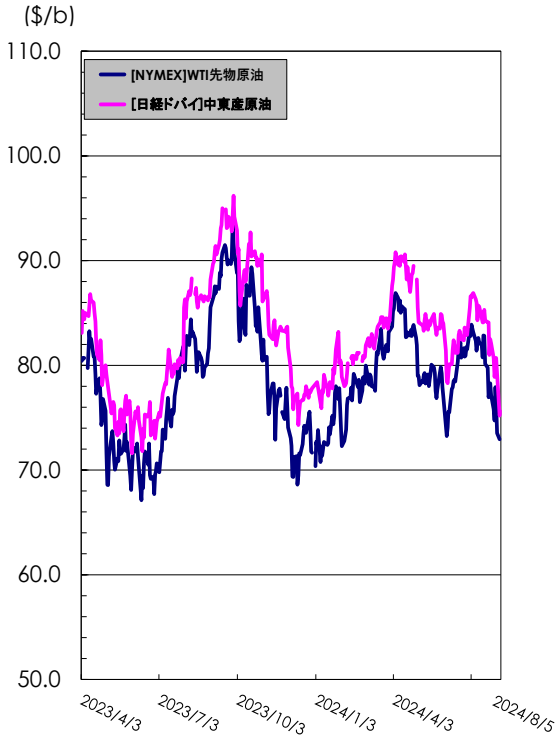
また、中東産ドバイ原油/東京市場（9月渡し）も、前週（7月25日～31日）78.90～82.50ドルの範囲で推移したが、当週は、8月1日80.70ドル、2日79.20ドル、5日75.20ドル、6日75.60ドル、7日75.20ドルと推移した。

対ドル為替レート（TTM）は前週（7月25日～31日）152.44～154.13円の範囲で推移したが、当週は、8月1日149.62円、2日149.52円、5日145.47円、6日144.98円、7日147.04円となった。

財務省が8月7日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、7月中旬の原油輸入平均CIF価格89,028円で前旬比1,109円高、ドル建て87.92ドルで前旬比0.07ドル安、為替レートは1ドル/161.00円。

そのような中で、8月5日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.3円安、軽油も同0.3円安、灯油も同2円安（18リットルベース）、ガソリンの全国平均価格は174.6円となった。8月8日～14日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は21.4円（補助金がない場合の次週予想価格196.2円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は11.2円）となった。

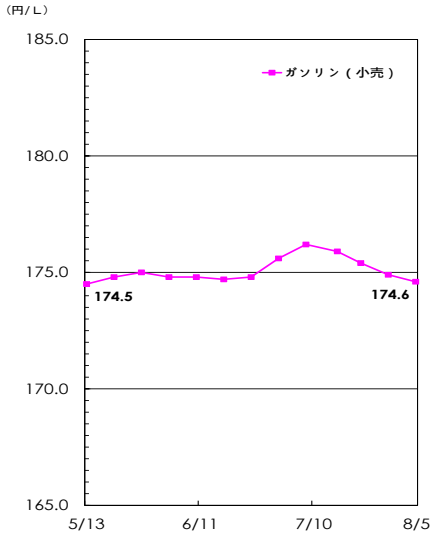
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	7/28 ～ 8/3	2,306	▲ 104	▼ －
	トッパー稼働率	（%）	〃	66.6	▲ 3.0	▼ －
	原油在庫量	（千kl）	8/3	10,510	▼ -111	▼ －
価格	中東産原油（日経ドバイ）	（$/bbl）	8/5	75.20	▼ -5.50	▼ -11.9
	WTI先物原油（NYMEX）	（$/bbl）	8/5	72.94	▼ -2.87	▼ -9.0
	原油CIF単価	（$/bbl）	7月中旬	87.92	▼ -0.07	▲ 7.40
	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	89,028	▲ 1,109	▲ 16,933
	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	161.00	▼ -2.15	▼ -18.65
	外国為替TTSレート	（¥/$）	8/5	146.47	▲ 8.29	▼ -3.77



（単位：千kl、円/リットル）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		7/28 ～ 8/3	829	▲ 60	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	834	▲ 29	▼ –
	輸出		〃	0	▼ -48	▲ –
	在庫		8/3	1,437	▼ -4	▲ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	7/30 ～ 8/5	81.0	➡ 0.0	▼ -4.0
		（TOCOM/中部）	8/5	79.5	➡ 0.0	▼ -9.5
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	8/5	174.6	▼ -0.3	▼ -5.7

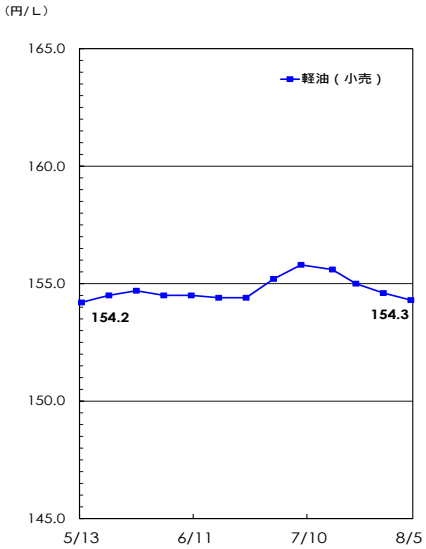
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/リットル）

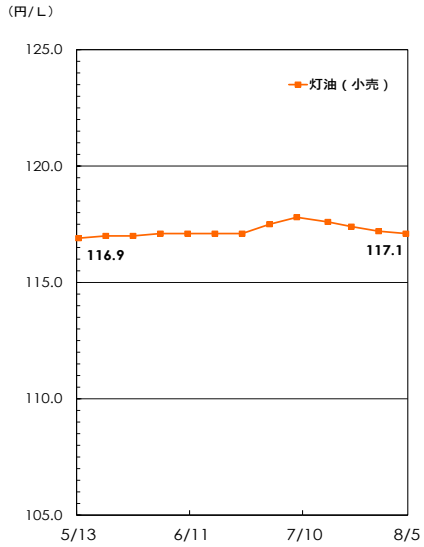
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		7/28 ～ 8/3	525	▲ 4	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	454	▼ -115	▼ –
	輸出		〃	76	▲ 9	▲ –
	在庫		8/3	1,252	▼ -5	▼ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	7/30 ～ 8/5	80.7	▼ -0.8	▼ -9.3
		（TOCOM/中部）	8/5	-	-	–
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	8/5	154.3	▼ -0.3	▼ -5.5

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/リットル）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		7/28 ～ 8/3	83	▲ 16	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	-20	▼ -53	▼ –
	輸出		〃	38	▲ 18	▲ –
	在庫		8/3	1,770	▲ 65	▼ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	7/30 ～ 8/5	81.5	➡ 0.0	▼ -2.5
		（TOCOM/中部）	8/5	80.0	➡ 0.0	▼ -8.5
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	8/5	117.1	▼ -0.1	▼ -2.2



■ 関連情報

1　海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（7/25～7/31）のNYMEX・WTI先物市場は74.73～78.28ドルの範囲で推移した。

当週、8月1日は、31日のイスラエルによると見られるハマス最高指導者のテヘランにおける殺害を受け、中東地域の緊張が高まり、ハマス・イラン側の報復が懸念される中、現時点の双方の自制的対応で、反落した。また、米国新規失業申請数の市場予想を上回る増加、米国株式市場の下落も、低下要因。なお、この日、OPECプラスは合同閣僚監視委員会（JMMC，WEB開催）で、現行減産方針の維持を確認したが、予想通りであり、大きな影響はなかった。9月物終値は同1.60ドル安の76.31ドル。

週末2日は、米国の7月の非農業部門新規雇用者数の伸びが鈍化、製造業景況指数も悪化、米国経済の先行き懸念が拡大し、続落した。株式市場の急落も低下要因。9月物終値は前日比2.79ドル安の73.52ドル。

週明け5日は、引き続き、米国景気鈍化に対する懸念、株式市場の低迷、投資家のリスク回避姿勢を受けて、3営業日続落した。ただ、イランによるイスラエル報復攻撃は近いとの懸念が下値を支えた。9月物終値は同0.58ドル安の72.94ドル。

6日は、世界同時株安の連鎖が止まり回復、投資家のリスク回避姿勢も後退し、4営業日ぶりに反発した。イランによるイスラエル報復攻撃の緊張が高まる一方で、米国エネルギー情報局（EIA）の短期見通しは、2024年/25年の世界需要見通しを下方修正、上値は限られた。9月物終値は、同0.26ドル高の73.20ドル。

7日は、米国の先週末の原油在庫が予想を上まわる取り崩しで、米国需要の底堅さを示したこと、週初めの安値の反動、値ごろ感もあって、続伸した。9月物終値は、同2.03ドル高の75.23ドル。イラン・イスラエル間の緊張の高まりも値上がり要因。

2　海外/米国石油市場

8月7日発表の2日時点の米国エネルギー情報局（EIA）の米国国内週間在庫統計は、原油は前週比370万バレル減と市場予想（同70万バレル減）を上回る6週連続の取り崩し、ガソリン在庫は同130万バレル増であったものの、全体として需給の引き締まり感が高まり、値上がり要因となった。

EIAによると8月5日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比3.6セント高の1ガロン3.448ドル（133.3円/㍑）と2週ぶりの値下がりで、ディーゼル小売価格は、前週比1.3セント安の1ガロン3.755ドル（145.1円/㍑）と4週連続の値下がり。

ベーカーヒューズ社によると、8月2日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比横ばいの482基となった。

3　国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年7月28日～8月3日に休止したトッパー能力は61.4万バレル/日で、前週に対して7.3万バレル/日減少した（全処理能力は311.0万バレル/日）。

原油処理量は230.6万klと、前週に比べ10.4万kl増加。前年に対しては73.9万klの減少。トッパー稼働率は66.6%と前週に対して3.0ポイントの増加、前年に対しては15.5ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェットが減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/7.8%増、ジェット/12.9%減、灯油/24.2%増、軽油/0.9%増、A重油/13.0%増、C重油/120.7%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl（前週比横ばい）。軽油の輸出は7.6万kl（前週比0.9万kl増）。

出荷（輸入分を除く）は前週に比べてガソリン、ジェット、A重油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではジェット、C重油で増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は83.4万kl（対前週3.6%増）と3週連続で増加した。ジェット10.7万kl（対前週63.7%増）、灯油-2.0万kl（対前週159.3%減）、軽油45.4万kl（対前週20.1%減）、A重油15.1万kl（対前週23.4%増）、C重油14.4万kl（対前週29.1%増）。

（単位：千KL）

	今週 (7/28 ~ 8/3)	前週 (7/21 ~ 7/27)	前週比
ガソリン	834	805	▲ 29　(4%)
ジェット燃料	107	65	▲ 42　(65%)
灯油	-20	33	▼ -53　(-161%)
軽油	454	569	▼ -115　(-20%)
A重油	151	123	▲ 28　(23%)
C重油	144	112	▲ 32　(29%)
合　計	1,670	1,707	▼ -37　(-2%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

4　国内/製品在庫量

8月3日時点の在庫は、灯油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはガソリンが増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンは143.7万kl、前週差0.4万kl減。前年に対しては0.7万kl多い。

灯油は177.0万kl、前週差6.5万kl増。前年に対しては20.9万kl少ない。

軽油は125.2万kl、前週差0.5万kl減。前年に対しては4.1万kl少ない。

A重油は67.9万kl、前週差0.3万kl減。前年に対しては2.5万kl少ない。

C重油は169.6万kl、前週差2.6万kl増。前年に対しては17.7万kl少ない。

（単位：千KL）

	今週 (8/3)	前週 (7/27)	前週比	
ガソリン	1,437	1,441	▼ -4	(-0%)
ジェット燃料	711	728	▼ -17	(-2%)
灯油	1,770	1,705	▲ 65	(4%)
軽油	1,252	1,257	▼ -5	(-0%)
A重油	679	682	▼ -3	(-0%)
C重油	1,696	1,670	▲ 26	(2%)
合　計	7,545	7,483	▲ 62	(0.8%)

5　国内/元売会社製品卸価格

7月30日～8月5日のドル建て中東原油価格は値下がり、為替レートも円高で、円建て輸入原油価格は値下がりし、元売会社の卸価格建値は値下げしたものと見られる。しかし、補助金の削減幅がこれを上回ったことから、8/8～8/14の実質卸価格は値上がりとなる模様。

6　国内/製品小売価格

8月5日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円安の174.6円、軽油も同0.3円安の154.3円、灯油も18㍑ベースで同2円安の2,108円（1㍑ベースでも同0.1円安の117.1円）。ガソリンは4週連続の値下がり、軽油も4週連続の値下がり、灯油も4週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが11都県、横ばいは1県、値下がりは35道府県だった。全国最安値は岩手県の168.2円、その次は愛知県の168.6円であった。他方、最高値は鹿児島県の182.6円。最も値上がりしたのは高知県（同2.8円高）、最も値下がりしたのは島根県（同2.0円安）だった。

次回調査時（8/13）のガソリンの小売価格は、小幅な値動きが予想される。

（単位：円/㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(8/5)	前週　(7/29)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	174.6	174.9	▼ -0.3	23/9/4	186.5
	灯油	117.1	117.2	▼ -0.1	08/8/11	132.1
	軽油	154.3	154.6	▼ -0.3	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）に掲載しています。
次回（2024第19号）の公表は、8/23（金）14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油価格】〈 WTI先物原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場（取引の中心限月）の午後の中値を採用。 ※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。
為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉
約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁ーHPに掲載）。